EMES C

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、 身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

「赤とんぼ」が舞ったあの日の空

~ 遠き日に思いをはせて ~

中山川河口左岸の埋め立て地には工場が建ち並んでいま すが、この場所が「飛行地」と呼ばれたことがあります。

その由来は、昭和13年から15年にかけて、当時の逓信・ 海軍両省によって約30万坪もの大規模な海岸埋め立て工事 が行われ、この地が飛行場として整備されたからです。当 初は、逓信省により愛媛地方航空機乗員養成所として使用 されましたが、第二次世界大戦開戦後は海軍航空隊の練習 基地となり、「赤とんぼ」と呼ばれた九三式中間練習機の 空を舞う姿がよく見られたそうです。

戦時中には、旧制中学生を含む多くの人々が滑走路の整 備や飛行機の退避壕造りなどの勤労奉仕に駆り出され、空 襲を受けることのほとんどなかった東予地区で、ここだけ はアメリカ軍の機銃掃射や空爆を受けました。終戦後は、 食料確保のための畑地として開墾されサツマイモなどが作 られたり、塩の生産が行われた時期もありましたが、昭和 36年ころからはゴルフ場となり今日に至っています。

その「飛行地」の一角からは大阪南港行きの大型フェリ 一が就航するなど、現在では物流拠点となっていますが、

ゴルフ場の片隅 に当時の給水塔 や防空壕が残っ ており、また記 念碑や平和観音 像なども安置さ れ静かに平和の 尊さを訴えてい るのです。



「瀬戸の内海見下して石鎚の峯仰ぎつつ…」と記された 記念碑と恒久平和を希求する観音像

丹原総合支所

F791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

夏休み最後の思い出づくりに…

~ 丹原もぎたて祭 ~

丹原町西部地区は西日本有数の樹園地帯として、古くか ら愛宕柿やみかん等が栽培されてきました。近年では農業 経営の安定化のため、いちご・スモモ・桃・いちじく・ぶ どう等多くの果物が栽培され、またグリーン・ツーリズム の広がりとともに、自然の恵みを感じながら旬の味覚を楽



しむことのできる体験・観光農 園もにぎわいを見せています。

そうした中、みどりと実りと みんなの笑顔を大切に守りなが ら「夢ある農業。農業を面白い ものに!」をモットーとして、 にぎわいを見せる「もぎたて祭り」 観光農園を運営する農家が組織 した丹原もぎたて倶楽部は、 小学生の体験学習の受け入れ や、収穫される農産物の良さ を紹介するなど、地域の情報 を発信しています。

今年は9月2日(日)が小中 学校の夏休み最後の日となり



ますが、その日には夏休みの思い出づくりとなるよう「丹 原もぎたて祭2012 夏」の開催を予定しています。今年で 3回目となるこの行事では、ザリガニ釣りなど子どもたち が喜ぶ各種イベントを用意しています。ご家族おそろいで 出かけてみてはいかがですか。なお、今年はイベント当日 の果物狩りは行いませんのでご了承ください。

(丹原もぎたて祭や果物狩りに関する問合せ) 丹原もぎたて倶楽部 TEL 080-6385-1801

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

郷土に残る偉人の足跡を訪ねて

~ 芸術文化に秀でた織田子青先生 ~



『夏があくびをしているよう だ/桐のひろ葉がだるそうに */*さよらさよらとゆれている /夏のあくびは七十五日/長 い長いと畑の芋はだるくてね むくてゆれている/夏が畑で あくびをしてる』これは郷土

の偉人・織田子青先生の童謡「夏のあくび」の歌詞です。 明治29年、小松町妙口(当時は石根村妙口)に生まれた 先生は、愛媛師範学校を経て大正8年に24歳で上京、童謡 や童話の創作活動を開始します。大正15年に今治に移って からは、書道の全国的な組織である「書神会」を興すなど 書家として大きな功績を残し、また俳句や油絵など幅広い 分野でも活躍されます。

「夏のあくび」は、月刊雑誌「少年倶楽部」(講談社) の大正11年9月号に発表されたもので、真夏の昼下がりの うだるようなさまが、品良く素朴に描き出されています。

石根小学校の校門を入ってすぐ左側の木立ちの中には、 この歌詞の記念碑があります。昭和43年、先生が73歳の時 に地域の皆さんの尽力により建てられたものです。

また書家としては、20歳の時に地元から頼まれ揮毫した 水門の記念碑が妙口地区に現存していますが、そのお礼が 小松銘菓の「よし乃餅」であったという思い出を、自身の 喜寿を記念した座談会で先生自ら語っておられます。

今も残る先生の足跡をたどってみてはいかがですか。